



冬

- ◆初冬 冬のならやまでは、昆虫を目にすることはほとんどありません。それでも里山の林の中に入るとクロスジフユエダシャク(ガ)が、たくさん飛ぶのを見かけることがあります。

クロスジフユエダシャク (オス)



クロスジフユエダシャク (メス)



ならやまでは12月初旬、オス22~32mm。メス10~14mm。林の中で群れをなして飛ぶことがあり、飛んでいるのはすべてオスです。メスのはねは、跡形(あとかた)程度(ていど)しかなく、枯れ葉の上などに止まっています。生きていくのに条件のよくない冬に繁殖行動(はんしょくこうどう)をするのは、何か有利なことがあるのでしょうか。メスがはねをなくしたのも、体温を失(うしな)いにくくするなどの理由があるのでしょうか。幼虫はクヌギ、コナラの葉を食べます。

- ◆真冬 朽ち木(腐った木)の中では、クロナガオサムシ、ウバタマコメツキ、その他の場所では、コガタルリハムシ、オオトビサシガメ、オオツノカメムシ、オオゴキブリなどが冬ごもり(越冬)をしています。

オオオサムシ



23~38mm、大型のオサムシ。活動期には夜行性で、ムシ類やミミズなどを捕えて食べています。後ばねは退化していて飛ぶことはできません。オサムシ類の大部分は、オオオサムシと同じように飛べなくなっています。

ウバタマコメツキ



26~32mm、大型のコメツキムシ。越冬するのは新成虫です。幼虫はマツの枯れ木の中で育ち、秋に羽化(うか)してさなぎから成虫になり、そのまま越冬して春に出てきます。

コガタルリハムシ



約5mm、小型のハムシ(甲虫類)です。幼虫、成虫ともに、ギシギシやスイバなどの葉を食べます。枯れ草の下などに集まって、成虫で越冬します。写真は休耕田(きゅうこうでん=田んぼであったところ)の枯れ草の下にいたものです。

オオトビサシガメ



20~27mm、大きなサシガメ(カメムシ類)です。サシガメ類は、小さな昆虫を捕えて体液を吸います。うっかりつかむと注射針(ちゅうしゃばり)のような口で刺(さ)されます。写真は太いスギの木の樹皮(じゅひ)の下で、越冬していたものです。

オオツノカメムシ



16~18mm、少し独特(どくとく)な形をしたカメムシです。幼虫はケンポナシ(植物の種類)の汁を吸い、成虫はミズキなどにつきます。マツの枯れ木の中で越冬していました。

オオゴキブリ



40~43mm、。ゴキブリ目(もく)の昆虫です。ゴキブリのなかまは、ごく大まかに分けると、カマキリに近い昆虫です。オオゴキブリは、朽ち木の堅(かた)い部分を食べます。よい自然が残っているとすむので、自然環境(かんきょう)の目安(めやす)になる昆虫です。



「羽化とは」、昆虫類が成育してさなぎや幼虫から、成虫になることをいいます。たとえば、トンボの幼虫(ヤゴ)が成虫に、モンシロチョウがさなぎから羽化して成虫のチョウになることです。羽化は昆虫にしか使いません。

「孵化とは」、卵から幼虫が生まれることをいいます。例えば「カブトムシの卵から幼虫が孵化した」というふうに使います。ふかという漢字には、卵という字が含まれていますので覚えやすいですね。ふかは、卵から生まれる種(しゅ)にはどれにでも使えます。